



右：英一郎さんの仕事場。景色を見ながらリラックスして仕事に励む。



上：近所の方からおすそ分けでいただいた開成弥一芋を料理。景色だけではなく、食でも四季を体感。

コロナ禍になり、こう思ったそう。「コロナ禍は、自宅での過ごし方をもっと大切にしたいと思うきっかけになりました。また、僕は、『表現』の仕事をしているので、いい景色や空気に囲まれて仕事をしたら、もっと進化できるのではないかと思ったんです。妻の後押しもあり、移住を決めました」。

妻の尚子さんは、「数年前の納涼まつりで、初めて開成町を訪れました。会場で無邪気に遊ぶ子どもの姿や間近に見た火花に胸を打たれ、『開成町に住んでみたい』と思いました。夫と二人すっかり町のファンになりました」と話します。



特集

かいせい暮らし

— 気付くともっと、好きになる

あなたは開成町のどんなところが好きですか？  
今月は、開成町に移住した方へのインタビューをとおして新発見／再発見した、町の魅力をお届けします。

企画政策課協働推進担当 ☎ 84・0315

豊かな暮らしを送れるまち

平山家の場合

開成町を知ったきっかけ

「田園風景、通り抜ける風、町の空気感が何よりも魅力的です」と話すのは今年7月、東京都から移住した英一郎さん。平成27年に実施した町のブランディング事業にコピーライターとして携わり、「田舎モダン」という町のキャッチコピーを考案した一人です。仕事で町に来る度、「いつか住みたい」と思ったそう。

夫婦ともに町のファンに

本当は老後に住む予定だったという英一郎さん。しかし、コ

開成町での暮らし

暮らし始めて4か月。感想を英一郎さんに聞くと、「仕事でこんを詰めすぎて、脳みそがギューッと固くなるのが前より少なくなったかな。リラックスして仕事できています」とお気に入りの窓から景色を眺めます。

尚子さんは「ビルに囲まれた生活から、山の表情の変化や風の音など自然を体感する生活になりました。地元の人には慣れたるかもしれませんが、白鷺が飛び立つ姿は、恐竜映画並みの大迫力です」と興奮気味に話します。

また、こんな嬉しい誤算も。「スーパーが多いことです。町内はもちろん、足柄地域に買い物できる場所が多くあり、何不自由なく過ごせています」。

スーパーでは、こんな出来事も。「地場産品コーナーで生産者が、野菜を並べる姿を見て、産地の近さに驚きました。おいしいものを一番乗り食べられること、生産者とコミュニケーションをとれることが嬉しい。豊かな暮らしを送れています」。平山さんの言葉は、開成町での暮らしをちよっと贅沢に感じさせてくれます。

POINT



開成町らしさを追求した町のブランディング

町の魅力や認知度を高め、町への愛着心や誇りを醸成するため、町のブランド化に取り組んでいます。ブランディングのコンセプト「田舎モダン」は、

都心からの距離感や景色から感じる程良い田舎の雰囲気を楽しむ町民のライフスタイルを表現しています。



四季折々のイベントがたくさん

あじさいまつりや納涼まつり、阿波おどり、ひなまつりなど、町の資源を生かした四季折々のイベントが盛りだくさんです。



えいいちろう 平山 英一郎さん  
なおこ 尚子さん

上延沢地区在住。犬のブルボンちゃんと夫婦二人暮らし。自治会にも加入し、12月の行事「ミニ門松づくり教室」への参加を楽しみにしている。